

わたしたちの霊の食物、わたしたちの霊の岩、主の食卓の内容

聖書：I コリント 10:3-4, 16-17, 21. 11:23-26

- I. 出エジプト記第 16 章の深遠な真理とは、神がわたしたちの食事を変えて、わたしたちに、父なる神によって送られたわたしたちの霊の食物、真のマナであるキリストを食物とするようにさせたいということです。それは、神の選ばれた民がキリストによって生きるためです——I コリント 10:3. ヨハネ 6:31-35, 48-51, 57-58:
- A. わたしたちがキリストから食べて、わたしたちの再構成する要素、供給となり、わたしたちをこの宇宙における神の住まいとならせるものは何であれ、永遠の記念となります——出 16:16, 32。
- B. 金のつぼの中にあるマナが神の住まいの中心点であったように、わたしたちが食べるマナとしてのキリストは今日、神の建造の中心点です——ヘブル 9:3-4. エペソ 4:16. コロサイ 2:19。
- C. わたしたちが取り入れて、わたしたちの支え、力、満足となる唯一の食物は、キリストでなければなりません。新約における唯一無二の務めは、神の民の唯一の食物としてのキリストを届けます——民 11:5-6. 参照、使徒 1:17, 25. II コリント 4:1. I テモテ 1:12. II コリント 3:6。
- D. わたしたちが継続的にキリストを享受するとき、わたしたちの唯一の食物（わたしたちの日ごとのマナ）としてのキリストの特徴は、新陳代謝的な造り変えを通して、わたしたちの特徴となり、キリストを大きく表現します——ヨハネ 6:57. ピリピ 1:20-21. 参照、ガラテヤ 6:17:
1. マナは奥義です——出 16:15. コロサイ 2:2. イザヤ 9:6. エペソ 3:4. ヨハネ 3:8。
 2. マナは長期間にわたる奇跡です——出 16:4. 参照、マタイ 6:34。
 3. マナは天からです——出 16:4. ヨハネ 6:41。
 4. マナは露と共に来ます——出 16:13-14. 民 11:9. 詩 133:3. 哀 3:22-23. ヘブル 4:16. 詩 110:3。
 5. マナは朝に来ます——出 16:21. 参照、雅 1:6 後半. 7:12. ヨハネ 5:39-40. ローマ 6:4. 7:6。
 6. マナは小さいです——出 16:14. ルカ 2:12. ヨハネ 6:35. 参照、士 9:9, 11, 13. マタイ 13:31-32。
 7. マナは細かいです——出 16:14. ヨハネ 6:12。
 8. マナは丸いです——出 16:14. ヨハネ 8:58。
 9. マナは白いです——出 16:31. 詩 12:6. 119:140. II コリント 11:3 後半。
 10. マナは霜のようです——出 16:14. 箴 17:27。

11. マナはコエンドロの種のようにです——出 16:31. 民 11:7. ルカ 8:11。
12. マナは固いです——民 11:8. II コリント 1:4. エペソ 6:18。
13. マナの外觀はブドラクのようにです——民 11:7. 啓 4:6, 8. エゼキエル 1:18。
14. マナの味は新鮮な油のようにです——民 11:8. 詩 92:10。
15. マナの味は蜜を入れて作られた極薄のパンのようにです——出 16:31. 詩 119:103。
16. マナは輪型の平らなパンを作るのに適しています——民 11:8. I テモテ 4:6。

II. キリストは十字架につけられ、ご自身の民について来る霊の岩となりました。このついて来る岩は、命を与える霊としての復活したキリストです。彼は常に召会と共にいて、命の水を彼の信者たちに供給します——I コリント 10:4. 出 17:6. 民 20:8. ヨハネ 19:34:

- A. 神の民の間の問題は、命の霊を予表する水に欠けることによって引き起こされることがあり得ます。神の民は、命の霊に欠けているときはいつも、問題を持ちます。神の民がその霊をあふれるばかりに持っているとき、彼らの間の問題、また神との問題は、解決されます——民 20:2-13. ヨハネ 7:37-39. ローマ 8:2。
- B. キリストは十字架につけられ、その霊は与えられたのですから、キリストが再び十字架につけられる必要はありません。すなわち、その岩を再び打って、生ける水を流れさせる必要はありません。神のエコノミーにおいて、キリストが十字架につけられるのは、ただ一度だけであるべきです——ヘブル 7:27. 9:26-28 前半。
- C. わたしたちは、十字架につけられたキリストから生ける水を受けるために、ただ「杖を取り」、「岩に語(る)」必要があるだけです——民 20:8:
 1. 杖を取ることは、キリストの死の中で彼と一体となって、キリストの死をわたしたち自身とわたしたちの状況に適用することです。
 2. 岩に語ることは、打たれた岩としてのキリストに対して直接、言葉を語ることであり、その霊がすでに与えられているという事実に基づいて、命の霊をわたしたちに与えてくださるよう彼に求めることです——参照、ヨハネ 4:10. ルカ 11:13。
 3. わたしたちは、キリストの死をわたしたち自身に適用し、その霊をわたしたちに与えてくださるよう信仰の中でキリストに求めるなら、生ける霊を命の満ちあふれる供給として受けます。
- D. モーセは岩に語らずに、民に対して怒り、民を逆らう者たちとして罪定めして、彼の杖で岩を二度打ちました——民 20:9-11:
 1. モーセは民を逆らう者たちとして罪定めしました。しかし、モーセこそ

が神の言葉に逆らった者でした——24 節、27:14。

2. モーセは、エホバを信じないで、イスラエルの子たちの前で、彼を聖と
しませんでした——20:12：

- a. 神を聖とするとは、神を聖なる方とすること、すなわち、神をすべての虚偽の神々から分離することです。神を聖としないとは、神を俗なものとするということです。
- b. 神が民に対して怒っていないのに、モーセは怒って、神の聖なる性質において神を正しく代行しませんでした。そして、彼は岩を二度打って、神のエコノミーにおける神の言葉を守りませんでした。こうして、モーセは神の聖なる性質と神の神聖なエコノミーの両方に違犯しました。
- c. この事のゆえに、モーセは神と親密であって、神の仲間と考えられていたにもかかわらず(出 33:11)、良き地に入る権利を失ったのです。

3. わたしたちが神の民に関して言うことと行なうことのすべてにおいて、わたしたちの態度は、神の聖なる性質にしたがっていなければならず、わたしたちの行動は、神の神聖なエコノミーにしたがっていなければなりません。これが彼を聖とすることです。そうでなければ、わたしたちは言葉と行為において、神に逆らい、神を怒らせるでしょう。

Ⅲ. キリストは主の食卓の内容として、神の新約エコノミーの実際です—— I
コリント 10:16-17, 21 . 11:23-26：

A. 主の食卓の強調点は、主の血の交わりと主の体の交わり、主にあずかること、交わりの中で相互に主を享受することです——10:16-17, 21 節：

1. 主がご自身をわたしたちに与えてくださったのは、わたしたちが、わたしたちの宴席としての彼にあずかり、彼を食べ飲みすることによって彼を享受するためです。キリストは、わたしたちの宴席、すなわち良き地の産物の実際となるために、手順を経なければなりません——参照、申 8:7-10：

- a. もしキリストが肉体と成っていなかったなら、血と体を持つことができませんでした。肉体と成ることを通して、キリストは血と肉を持つ人の体を着ました——ヘブル 2:14。
- b. もしキリストが十字架につけられなかったなら、彼の血は彼の体から分離されることができませんでした。十字架につけられることを通して、彼の血は彼の体から分離されました——ヨハネ 6:53-55。
- c. もしキリストが復活させられなかったなら、彼はわたしたちの食物として食卓の上に置かれることはできませんでした。キリストは復活の中で、食卓の上の宴席となり、わたしたちの養いと享受になっています。ご自身の体とご自身の血をわたしたちにささげている方は、すべ

てを含む、命を与える霊としての復活したキリストです——Ⅰコリント 15:45 後半、Ⅱコリント 3:17。

2. 主イエスは、「パンを取り、それを祝福してさき、弟子たちに与えて言われた、『取って食べなさい。これはわたしの体である』」——マタイ 26:26：

- a. パンは命、すなわち神の命、永遠の命を示しています。パンは、主が十字架上でわたしたちのためにささげて、命をわたしたちの中へと分け与えるための主の物質の体を表徴しています——ヨハネ 6:35, 57, 63. ルカ 22:19。
- b. パンはまた、主の奥義的なからだを表徴しています。このからだは、キリストが彼の天の務めを遂行して、神聖な行政を完成する手段です——エペソ 1:22-23, 4:16, 啓 5:6。
- c. わたしたちは主の神聖な命にあずかり、彼を命のパンとして食べて享受することによって、主の奥義的なからだ、彼の拡大となります——Ⅰコリント 10:17, 12:27。

3. 主イエスは杯を取り、感謝をささげて、それを彼らに与えて言いました、「みな、それから飲みなさい。これは、多くの人に罪の赦しを得させるために、注ぎ出されるわたしの契約の血である」——マタイ 26:27-28：

- a. 杯は祝福、すなわち、わたしたちの分け前としての神ご自身を示しています——詩 16:5。
- b. 主の救いはわたしたちの分け前、すなわち、満ちあふれる救いの杯となりました。その内容は、わたしたちのすべてを含む祝福としての神です——116:13, 23:5。
- c. キリストの血は新契約の血であり、わたしたちを新契約の中へと導き入れます。神はこの新契約において、新しい心、新しい霊、彼の霊、内なる命の法則、命の能力をわたしたちと与えて、わたしたちに神を知らせ、神を所有させ、またわたしたちが神によって所有されるようにし、神がわたしたちのすべての罪科を赦し忘れるという祝福をわたしたちに受けさせます——エゼキエル 36:26-27, ルカ 22:20, ヘブル 8:10-12, 詩 103:1-3, 12。
- d. 契約の血は、わたしたちを至聖所の中の神の臨在(そこでわたしたちは神の麗しさを見つめます)の中へと、また神の注入と伝達の中へと、そして神の永遠の享受の中へと導き入れます。このように神を享受することは、神の人を生み出すものです——詩 27:4, 出 24:8, 参照、レビ 16:11-16。
- e. 究極的に、契約の血、永遠の契約の血は神の民を、命の木と命の水である神の満ち満ちた享受の中へと、今から永遠に至るまで導きます

——ヘブル 13:20．啓 7:14, 17．22:1-2, 14, 17。

- B. 「あなたがたがこのパンを食べ、その杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」——Ⅰコリント 11:26．参照、ローマ 5:10:
1. 「主の死を告げ知らせる」ことは、主の死を宣言して、展覧することです。命を解き放つ主の死を告げ知らせることは、召会を生み出す主の法理的な贖いのための彼の最初の到来を告げ知らせることです——ヨハネ 12:24, 19:34。
 2. 「まで」が暗示しているのは、召会がキリストの有機的な救いの過程においてキリストを食べ飲みすることによって、キリストの最初の到来と再来の間の架け橋となるということです。
 3. 主がマタイ第 26 章 29 節で「わたしの父の王国でああなたがたと共に新しく飲むその日まで、わたしは今後、ぶどうからできたものを、決して飲むことはしない」と言ったように、「主が来られる」とは、地上に神の王国を設立するための主の再来です。
 4. こういうわけで、主が来られるまで主の死を告げ知らせることは、召会の存在を告げ知らせ、王国をもたらすことです。わたしたちが主の晩餐^{ばんさん}を食べることは、主の二度の到来を覚えておくという結果にならなければなりません。